

チャレンジ！
野菜づくり

おいしくて形の
良いダイコン作り

ダイコンは、強大な根を速いスピードで地中に形成するので、根形や品質が土壌や肥料栄養の影響を受けやすい性質を持っています。そのためには、次のポイントを押さえて育てることが大切です。

1 畑の準備と基肥の施し方

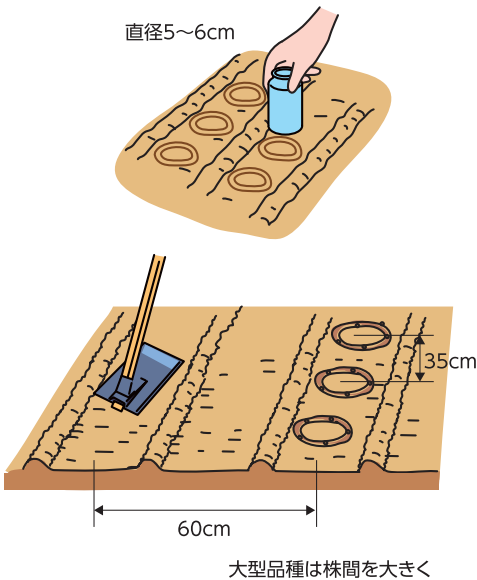
少なくとも種まきの20日以上前に畑全面に石灰をまき、石ころや木切れなどを取り除きながら30cm以上の深さによく耕します。吸肥力は強い方なので、前作に堆肥が施してあれば、特に堆肥を与える必要はありません。

痩せ地で有機物不足が心配なら、完熟堆肥と有機配合肥料をよく混ぜ合わせ、事前に醗酵させた物を、株と株の間に当たる所に施し、根の伸びを妨げないようにします。

2 ままぎどきを守る

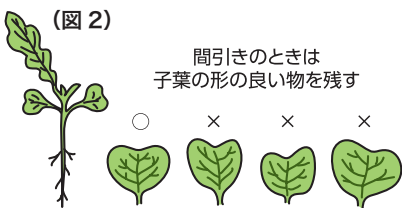
早まきし過ぎると

(図1) 種まきは円形の印を付けて



大型品種は株間を大きく

(図2)



間引きのときは
子葉の形の良い物を残す

(図3)



追肥
第1回は株の周囲に
第2回以降は列の片側ずつに

病害虫の被害を受けやすく、遅過ぎると根の肥大不足になります。まぎどきは8月中旬〜9月中旬です。品種による違いもあるので、種子を求めるときに適期を確かめ、適期範囲のやや遅めにまき、管理を入念にして成長を促進するよう心掛けましょう。

3 間引きと追肥、入念な土寄せ

種子は1カ所5〜6粒を、瓶などで円状に付けた溝にまきます(図1)。発芽して本葉1枚の頃から8〜9枚の頃にかけて3回ほど間引き1本立てにします。間引く際には、子葉がハート形で素直に開いている株を残すようにします(図2)。異常に育ちの早い株や、形が非対称の株は、根が枝分かれしたり、短くなったりする場合がありますので、注意しましょう。間引いたら株の周りに土を寄せ、

風で振り回されないように保護し立ち上げさせます。追肥は第2回の間引き時から半月ごとに3回ほど与え、土を掛けて畝を作ります。肥料は化成肥料と油かすに加え、米ぬかを混ぜると食味が良くなります(図3)。

4 害虫の予防、駆除を怠りなく

アブラナ科野菜の常として各種の害虫(シンクイムシ、コナガ、アブラムシ、ハスモンヨトウなど)の被害が出やすいので、早めに発見、適応農薬を散布して防ぎます。農薬に頼らない防除法としては

ソルゴーを何列か置きに作り障壁にすることで、防虫ネットやべた掛け資材の被覆などがあります。被覆した場合は種まき後3週間以内ぐらいに除覆しないと生育に支障をきたすので、注意してください。

肥料・農薬のご紹介

平成31年産

水稲肥料・農薬

予約受付開始!

平成30年9月末日まで

(一部除く)

●皆様のお宅へ、担当者が訪問!

作付や栽培、肥料や農薬など、どんなことでもお気軽にご相談ください。

●ご希望に沿った商品をご提案します。

●早期予約で大きな値引きを実現!

当JAでは、早期に予約を行うことで、通常価格より安く肥料・農薬をご提供しています。「栽培ごよみ」にセットされている予約申込書で、お申し込みください。



※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。